

エンジニアリング・デザイン教育の審査方針

2010年4月28日

JABEE 認定・審査調整委員会

委員長 三木哲也

エンジニアリング・デザイン教育（以後「デザイン教育」）に関しては、「JABEE におけるエンジニアリング・デザイン教育への対応基本方針」<<http://www.jabee.org/OpenHomePage/news.htm#design>>と題して2009年2月に公表されています。

2010年度の審査にあたっては、このデザイン教育の主旨を踏まえ、下記の〔評価観点〕による評価を総合して基準への適合度を判定して下さい。特に、下線の観点に留意して審査を行うようお願い致します。

〔評価観点〕

1. デザイン能力に関して具体的な達成目標を設定しているか。
2. 学生にデザインあるいは問題解決策についての学習体験をさせているか。
3. 学生に以下のような能力が育成される複合的で解が複数存在する課題を提示しているか。
 - (1) 複数のアイデアを提案できる。
 - (2) 大学で学ぶ複数の知識を応用できる。
 - (3) コミュニケーション力ならびにチームワーク力。
 - (4) 創造性（既存の原理や知識を組み合わせ、新規の概念または物を創り出せる）。
 - (5) コスト等の制約条件や評価尺度を考慮できる。
 - (6) 自然や社会への影響（公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理等）について考察できる。
4. 以下のような内容を含む達成度評価を実施しているか。
 - (1) 解決すべき課題の内容を良く考えている。
 - (2) 制約条件を考慮したデザイン（あるいは解決策）となっている。
 - (3) デザイン（あるいは解決策）の結果を分かりやすく提示している。
 - (4) その他、当該プログラムのデザイン教育に関連する学習達成目標を満足している。
（例えば、構想力／構想したものを図、文章、式、プログラム等で表現する能力／計画的に実施する能力など）
5. 上記2.～4.についての裏付け資料があるか。

なお、卒業研究だけをデザイン教育として位置づけているプログラムの場合には、上記の評価観点と共に以下の点に特にご留意ください。

- (a) 「卒業研究」科目では、共通の学習達成目標が具体的に設定されていて、履修生全員に実質的に同等の教育が行われ、上記4の(1)-(4)が含まれる達成度評価が行われているか。
- (b) 卒業研究のテーマは、上記の3.に適合して設定されているか。
因みに、単に指導教員の指示にのみ従って実施する卒業研究の場合は、デザイン教育として位置づけることは出来ないと考えられます。